

佐倉市における子育て期終了後の生活の変化に関する研究

日大生産工(院) ○畔蒜 佑一
日大生産工 山岸 輝樹

1. はじめに

1-1.背景と目的

人生80年、100年と言われ、社会が超高齢社会、成熟社会へと移行する中で、子育ての時期と同様かそれ以上に子育て後の生活の豊かさの重要度が増している。子育て期に対応する形で整備されることが多い戸建て住宅に対して子育てを終えた後も豊かに暮らすことができる住まいの実現を目指す必要があると考える。本研究では20～30年前に建設された戸建て住宅を対象に、子育てを終えた後の住まい方の変化を明らかにし、今後の日本住宅における住まい方に関する一考察とすることを目指す。

今回は子育て期終了後の世帯の生活の変化と子供が巣立つことによって生まれる余剰室の利用傾向を明らかにすることを目的とする。

1-2.調査対象地の概要

調査の対象地として、東京郊外住宅地である千葉県佐倉市を選定する。2013年時における10～14歳、15～19歳の人口は2023年時には20～24、25～29歳となり、その人口は2013年から2023年の10年間で減少している地域は、進学や就職、結婚などの理由でほかの地域へ移住していると推測できる。アンケート調査は20代・30代の人口の減少が見られる佐倉市のN町で行う。

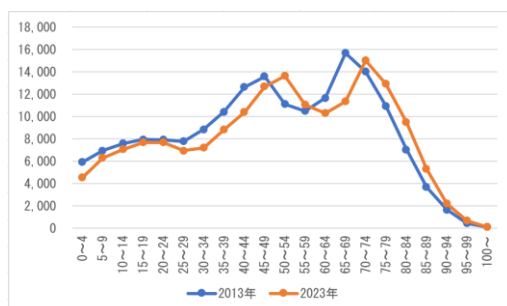


図1 佐倉市N町年齢別人口 (2013 - 2023年)

1-3.調査方法

20代～30代のとき巣立ち期の子供が多く居住していたと想定される地域へアンケート調査を一戸建ての住戸を対象にポストイング形式で行う。調査の詳細を表1に記す。

計419件に配布し、73件の回収をすることができた。(回収率17%)

住まい方の変化を把握できるよう、「10年前」と「現在」の同居家族、食事や就寝状況、元子供室の利用状況などを調査する。

表1 アンケート調査内容

| 子育て終了後の住まい方に関するアンケート調査 | | |
|------------------------|------------------------|-----|
| 対象 | 佐倉市N町の戸建て住宅に住む居住者 | |
| 期間 | 2023年9月26日 13時～14時 | |
| 方法 | 直接ポストイングを行い配布し、郵送により回収 | |
| 配布と回収状況 | | |
| 配布件数 | 回収件数 | 回収率 |
| 419 | 73 | 17% |
| 設問内容 | ・ 住まいの構成 | |
| | ・ 住まいの構成10年前と現在の同居家族 | |
| | ・ 就寝状況 | |
| | ・ 食事について | |
| | ・ 元子供部屋の利用について | |
| | ・ 子供の帰省について | |

2. 調査対象者の概要

調査で得られた世帯の状況を以下に記す。

回答全73件で、内「子供が1人」の世帯が12件、「子供が2人」の世帯が41件と最も多く、次いで「子供が3人以上」の世帯が14件、2人以上の子供がいる家庭がほとんどである。(表2)

合計で140人の子供がおり、そのうちの110人(79%)が実家を巣立っている。ほとんどの家庭で子供が他の居住地へ移住している。

表2 世帯の子供人数

| | 子供が1人 | 子供が2人 | 子供が3人以上 | 合計 |
|--------|-------|-------|---------|----|
| 世帯数(件) | 12 | 41 | 14 | 67 |
| 巣立ち(件) | 12 | 40 | 12 | 64 |

表3 子供の巣立ち状況

| 子供数 | 巣立ち数 | 巣立ち (%) |
|-----|------|---------|
| 140 | 110 | 79% |

3. 生活内容の変化

ここでは10年前と現在の生活の変化として、就寝状況と食事のとり方についてみる。

3-1.就寝状況の変化

就寝状況について、「10年前」は夫婦とともに就寝(以下、同寝)している件数は40件と全体の69%を占める。別々に就寝(以下、別寝)して

いる件数は18件で31%である。「現在」は同寝が30件で全体の51%、別寝が29件で全体の49%であり、「10年前」に比べて「現在」のほうが同寝をしている割合が減少し、「別寝」の割合が増加している。(表4)

表4 「10年前」と「現在」の就寝状況

| | 同寝(件) | 別寝(件) | 同寝(%) | 別寝(%) |
|------|-------|-------|-------|-------|
| 10年前 | 40 | 18 | 69% | 31% |
| 現在 | 30 | 29 | 51% | 49% |

3-2.食事のとり方の変化

食事のとり方について、最も多く夫婦で共に食事をとるのは「夕食」で、次に「朝食」が多い。「昼食」は日中に仕事に出かけていることもあり、「一緒に」食事をとる割合が減少して「別々に」とる割合が多くなる。

「10年前」と「現在」のちがいにおいて、大きな変化は見られないが、「10年前」に比べて「現在」は「別々に」食事をとる件数が増加する。(図2)

食事を誰が用意するかについても、ほとんどの世帯で「妻」が用意しており、10年間の間で大きな変化はない。一部の世帯では「それぞれ」別々で用意する世帯と「妻」が用意する世帯が減少し、夫婦で「一緒に」用意する世帯と「夫」が用意する世帯が増加しており、夫が家事に関わるようになる傾向がわずかにみられたが、これは夫婦の年齢的に仕事を退職することの多い年齢であり、普段の生活に余裕が生まれることから生まれる状況だと推測できる。

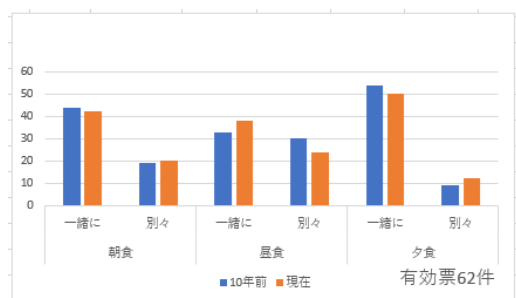


図2 食事の共用傾向

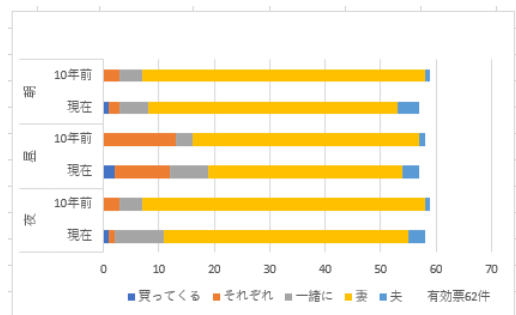


図3 食事の用意

4. 元子供室の利用状況

4-1.子供室利用の全体像

子供が別居することによって生まれる余剰室の利用状況を以下に記す。

元子供室の利用において、「よく利用している」と回答した件数が41件、「少し利用している」と回答した件数が15件、「あまり利用していない」と回答した件数が10件、「全く利用していない」と回答した件数が18件とほとんどの世帯で元子供室が利用されている。(図4)

中でも、実際に利用をしている世帯での利用目的は「客間」としての利用が3件、夫婦またはその他家族の「個人利用」が12件、「趣味」での利用が11件、「仕事」での利用が4件、「家事」での利用が1件、「睡眠」での利用が11件、「植物」の育成での利用が2件、子供の「帰省部屋」としての利用が16件、「物置」としての利用が18件、「その他」の目的での利用が2件という結果となる。(図5)

子供の「帰省部屋」や「物置」としてのなどの普段の生活行為以外での利用が多い反面、「個人利用」、「趣味」、「睡眠」など普段の生活行為において活発的に利用している世帯も多く見られた。(図5)

特に「睡眠」における利用の一部は表4における「現在」までの10年間の間で減少した同寝の世帯が、元子供室を利用して別寝へと変化していると推測できる。

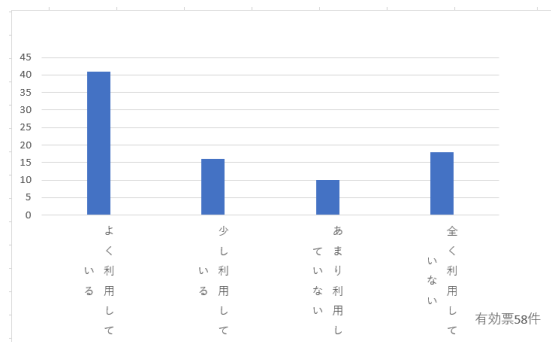


図4 元子供室の利用頻度

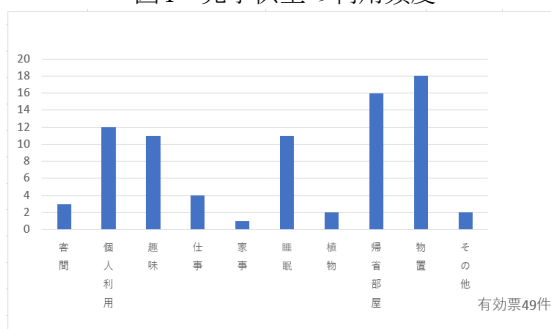


図5 元子供室の利用目的

元子供室の利用目的として「客間」としての利用、「個人利用」、「趣味」、「仕事」、「家事」、「睡眠」、「植物」の育成などの日頃の生活の中での「活発的な利用」のされ方が44件、「帰省部屋」、「物置」としての日頃の生活の中ではされない「消極的な利用」のされ方は34件と「活発的な利用」のほうが多くされているが、その差は大きくはない。(表5)

表5 元子供室利用の分類

| | 活発的な利用 | 消極的な利用 |
|----|--------|--------|
| 件数 | 44 | 34 |

4-2. 子供帰省時の元子供室の利用

子供が帰省時に寝泊まりする場所を以下に記す。

「元子供室」が32件、リビングや客間、和室など「元子供室以外の部屋」が32件、実家には宿泊しない「それ以外」が8件であり、帰省部屋として使用されている16件を大きく上回る。(表6)

また、複数兄弟での「帰省部屋」の有無を見ると「1人1部屋」の世帯と「兄弟で1部屋」を共用している世帯が存在する。(表7)

以上のことから、子供の帰省時には「元子供室」を「睡眠」のために利用している「夫」または「妻」が一時的に「同寝」あるいは別の部屋で就寝を行っているか、帰省した子供が「帰省部屋」を共用していると考えられる。

表6 子ども帰省時に寝泊まりする場所

| | 元子供室 | 元子供室以外の部屋 | それ以外 |
|----|------|-----------|------|
| 件数 | 32 | 32 | 8 |

表7 複数兄弟での帰省部屋の有無

| | 1人1部屋 | 兄弟で1部屋 |
|----|-------|--------|
| 件数 | 2 | 6 |

5. 元子供室利用の特徴

5-1. 子供の性別・出生順から見た元子供室の利用状況

元子供室における利用の特徴を以下に記す。子供の性別・出生順で見ると夫婦で元子供室の利用に違いが見られる。(表8)

「夫」は第1子(男)に比較的集中しており、子供の出生が早い順に元子供室を使用する傾向にあることに対して、「妻」は第2子(女)に集中している傾向にあった。また、「その他」は実家を離れていない兄弟または祖父母が使用している事例が多く、その場合も第1子の元子供

室を利用する傾向が多いことから、余剰室の利用要求において「夫」が最も優先され、次に実家に残っている兄弟や祖父母、「妻」の順に利用されると推測できる。

また、子供の性別による元子供室の利用傾向は「夫」の場合は「子供が男」の件数が最も多く「妻」の場合は「子供が女」の件数が最も多い。このことから、元子供室の利用は子供の性別でも「夫」と「妻」のどちらが使用するかに影響すると推測できる。

表8 子供の性別・出生順における元子供室の利用状況

| | | 夫 | 妻 | その他 |
|------|---|----|----|-----|
| 第1子 | 男 | 12 | 3 | 7 |
| | 女 | 4 | 3 | 4 |
| 第2子 | 男 | 2 | 2 | 0 |
| | 女 | 3 | 9 | 5 |
| 第3子 | 男 | 0 | 0 | 1 |
| | 女 | 0 | 2 | 0 |
| 子供が男 | | 14 | 5 | 8 |
| 子供が女 | | 7 | 14 | 9 |

5-2. 夫婦の違いと子供の性別から見た元子供室の利用目的

元子供室を利用する際に、夫婦でそれぞれ利用の仕方に違いが見られる。(図6)

「夫」の利用目的として最も多いのが「睡眠」で次いで「個人利用」、「趣味」での利用が多い。「物置」、「家事」、「その他」の目的での利用も若干見られ、「客間」、「仕事」、「植物」の育成目的の利用は見られない。

「妻」の利用目的として最も多いのが「物置」、「趣味」で次いで「睡眠」、「客間」での利用が多い。「個人利用」、「仕事」、「家事」、「植物」の育成、「その他」の目的での利用も若干見られる。

「夫」は「個人利用」や「睡眠」といった個人の占有あるいは滞在をする傾向にある。

対して「妻」は元子供室を「趣味」や「客間」として利用する一方で「物置」として使用する事例が多く「積極的な利用」と「消極的な利用」を行う傾向にある。

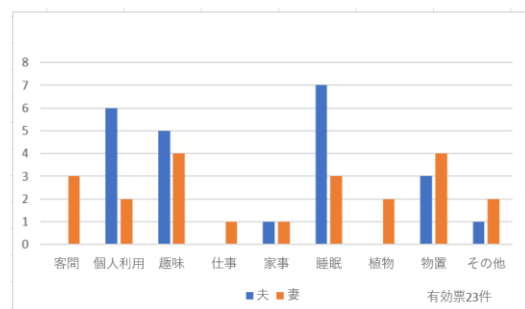


図6 元子供室の利用目的(夫婦別)

一方で、子供の性別においても元子供室の利用目的に違いが見られた。(図7)

「子供が男」の場合の利用目的は「個人利用」が最も多く、次いで「睡眠」、「帰省部屋」、「物置」としての利用がされ、それ以外には「客間」、「趣味」、「仕事」、「家事」、「その他」の利用が若干見られるが、「植物」の育成目的の利用はされていない。

「子供が女」の場合の利用目的は「物置」としての利用が最も多く、次いで「趣味」、「帰省部屋」としての利用がされ、それ以外には「客間」、「個人利用」、「仕事」、「家事」、「植物」の育成、「その他」の利用が若干見られるが、「家事」の利用はされていない。

子供の「帰省部屋」としての利用や、「物置」の利用を除き、「子供が男」の場合は「個人利用」、「睡眠」など個人の占有あるいは滞在する傾向にあり、「子供が女」の場合は「趣味」や「客間」など一時的な利用が多くなる傾向にある。

また、「個人利用」、「睡眠」などの「積極的な利用」は「子供が男」の部屋で多くみられ、「帰省部屋」、「物置」などの「消極的な利用」は「子供が女」の部屋で多く見られる。

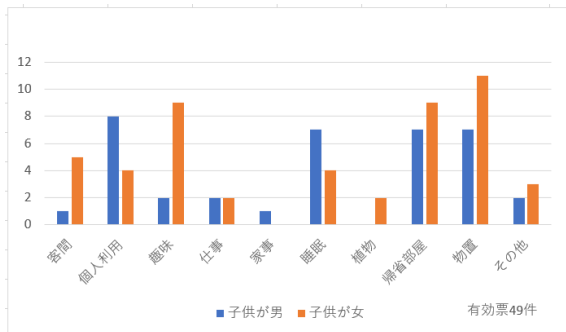


図7 元子供室の利用目的(子供の性別ごと)

子供の性別、夫婦別で元子供室の利用目的の傾向を以下にまとめた。(表8)

「夫」は「子供が男」の際に「個人利用」、「睡眠」、「仕事」、「妻」は「子供が女」の際に「客間」、「植物」、「物置」など活発的な利用をする傾向にある。

また、子供の性別で見ると「子が男」の部屋は「個人利用」、「睡眠」、「仕事」などの生活行為のために利用される傾向にあり、「子が女」の部屋は「趣味」や「植物」の育成などの娯楽のための利用をされる一方で、「客間」や「物置」など普段の生活の中では活発的な利用はされない傾向にある。

表8 元子供室の利用傾向

| | 夫 | 妻 |
|-----|-----------------|---------------|
| 子が男 | ・個人利用・睡眠 ・仕事 | ・仕事 |
| 子が女 | ・趣味 ・物置 | ・客間・植物 ・物置 |

6. まとめ

今回のアンケート調査によって得られた知見を以下に記す。

- ・夫婦の就寝状況は子供との別居前と別居後で大きな変化はないが、一部の世帯で元子供室を利用して別寝に移行する
- ・元子供室の利用について「夫」が最も優先され、その他兄弟や祖父母、「妻」の順で優先される傾向にある。
- ・元子供室の利用目的は「子供が男」の場合は「個人利用」、「睡眠」など個人の占有あるいは滞在する傾向にあり、「子供が女」の場合は「趣味」や「仕事」など一時的な利用が多くなる傾向にある。

7. 今後の研究について

今回の調査では東京郊外地域である佐倉市にて「10年前」と「現在」での生活の変化を明らかにした。今後の調査では、都心との圏域を視点に複数個所での調査を行うとともに、住まい方の変化が起こった経緯について把握したい。

参考文献

- 1) ライフイベント時の領域変容から見たエンptyネスト住宅に関する研究 田村 幹
- 2) エンptyネスト期における寒冷地の高断熱・高気密住宅の住まい方 その1 ライフコースとエンptyネストの実態 田村 幹 千葉 大輝 真境 名 達哉
- 3) 千葉県佐倉市 行政サイト <https://www.city.sakura.lg.jp/section/jiko/tikunen/mokuji.htm>